

第1回 文化ホールの在り方検討会 議事要旨

1 名称

文化ホールの在り方検討会

2 開催日時

令和7年11月13日（木）13時30分～15時30分

3 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

4 出席委員等（6名）

(1) 委員（敬称略）

勝又 英明（座長）、栗原 一浩、田中 貴宏、中川 幾郎、三宅 香織、渡邊 一成

(2) 事務局

広島市市民局文化スポーツ部文化振興課

(3) 受託事業者

株式会社シアターワークショップ

5 傍聴人の人数

3人（報道関係者を除く。）

6 議事（公開）

- (1) 文化ホールの在り方検討会開催要綱等の制定について
- (2) 座長の選任について
- (3) 検討会の進め方について
- (4) 文化ホールの現状と課題等について

7 資料名

- ・ 第1回文化ホールの在り方検討会 配席図
- ・ 文化ホールの在り方検討会 委員名簿
- ・ 文化ホールの在り方検討会開催要綱.....資料1
- ・ 文化ホールの在り方検討会の公開に関する取扱要領.....資料2
- ・ 文化ホール在り方検討会の進め方.....資料3
- ・ 文化ホールの現状と課題について.....資料4

8 発言要旨

(1) 文化ホールの在り方検討会開催要綱等の制定について

－事務局より資料1及び2について説明－

(2) 座長の選任について

開催要綱第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により、勝又委員を座長に、渡邊委員を座長の職務代理者とすることに決定した。

(3) 検討会の進め方について

－事務局より資料3について説明－

(4) 文化ホールの現状と課題等について

－事務局より資料4について説明－

(勝又座長)

・事務局から説明があったが、この内容について何か質問や意見等あるか。

(三宅委員)

・令和5年度に広島県立文化芸術ホールで改修工事を行ったのは、どういった中身の改修工事なのか教えてほしい。

(事務局)

・トイレの改修工事を行うにあたり休館したため、利用件数として落ち込んでいる。

(勝又座長)

・ふくやま芸術文化ホールの高い稼働率、これは積極的な芸術監督がいらっしゃるので、稼働率が伸びているのではないかと思う。

・他は大体40～50%という稼働率。やはりこのように何か芸術監督で頑張る方がいらっしゃると良い意味で改善していくということがあるのではないかと思うが、もし何か他の要因があれば教えてほしい。

・広島市からプロの交響楽団も積極的に呼んでいるなどと言われていたが、どうか。

(事務局)

・御指摘のとおり、こういった会場の稼働率は公演の回数が大きく影響するということで、当然プロモートする方の影響は非常にあると考えており、御指摘の内容から、そういった稼働率になっていると認識している。

(渡邊委員)

・18ページの資料について、政令指定都市における文化ホールの利用状況の広島市のその他が28.7%が多いが、その他には何が含まれているのか教えてほしい。

(事務局)

・学校の部活動やサークル活動、それからミュージカルの場合舞台設営などの準備が含まれている。

(田中委員)

・政令指定都市の文化ホール数のデータを見ると、静岡が人口規模に比べかなり多いのではないかという印象を受けたが、何か特殊な事情があれば教えてほしい。

(受託事業者)

- ・静岡市の場合は県庁所在地で県の施設があり、加えて大きなホールを持つ静岡市と清水市が合併したため数が多くなっている。

(勝又座長)

- ・広島市および他都市の調査結果を踏まえて、広島市の文化ホールの課題の抽出について、委員の皆さんと考えを聞かせてもらいたい。
- ・やはり政令指定都市との比較を行ったときに、広島市の都市の規模であれば音楽専用ホールがなくてはいけないと感じている。
- ・多目的ホールがたくさんあるということだが、多目的ホールが悪いということは全くない。よく多目的ホールは無目的だと言われた時期があるが、今回対象になっている30年から40年というのは微妙なところがある。別に多目的ホールが悪いというよりは、例えば改修をすることによって機能を上げるということもあるかもしれない。
- ・特にクラシック音楽の場合でしたら、専用ホールに性能面ではなかなか勝ちにくいかいうところがあるのでないかと思う。

(渡邊委員)

- ・今音楽ホールの話が出たが、私が住んでいる福山市では、リーデンローズ（ふくやま芸術文化ホール）という、一応多目的ホールだが、かなり残響等の設計が良く、音楽ホールにかなり近いようなスペックを持った施設がある。
- ・多目的ホールだけれど比較的音楽専門ホール寄りという意味で、福山のリーデンローズは結構良い作りをしており、稼働率も高いことや、芸術監督も頑張っておられるので、素晴らしいと思っている。
- ・そういう意味では広島にも、確かにそのような音楽ホールがあっても良いと思う。
- ・資料14ページについて、政令指定都市の文化ホールの数と書いてあり、注目したいのは民間。
- ・実は仙台市と福岡市には同じ中枢都市の中でも、民間のホールがあり、大阪市は公共よりも民間が圧倒的に多いというのが特徴的である。それ以外にも神戸市・堺市・京都市・名古屋市、あるいは川崎市など、結構民間が持っているホールもあるので、何かそういう方向性もあるのではと思う。
- ・もちろん公共施設でも構わないが、例えば民間企業が頑張ると言ったら、何か行政が支援とか、民設民営で公共が後ろを支えるみたいな新しい官民連携みたいな姿もあり得ると思う。

(三宅委員)

- ・私は公民連携事業公共施設のファシリティマネジメントをずっと専門でやってきている。
- ・広島市の公共施設等総合管理計画を見させてもらった。申し訳ないが、何の目標値設定もされていない。広島は大きな市で、文化施設もあればスポーツ施設や住宅関係もあるし、たくさん色んな施設がある。それぞれの種類でそれぞれ考えなさいみたいなことが書かれてある。広島市全体でどう考えているのかという公共資産のマネジメントの方向性がちゃんと示されていないというのは少しまずいなと思っている。だから文化施設においても、やはり減らさないといけないというのならば、はっきり言うというところから始めないとなかなか現実的に計画に落とせない。検討会で言うのはいくらでも言えるが、絵に描いた

餅になってしまうというのが私の感想。

- ・なぜそういうことを言うのかといったら、やはり判断の優先順位というのが政治的問題である上、文化ホールやスタジアムとなると非常に大きな話となる。昨今の自治体の財政状況はあまり良くないから、民間主導の民間資金も入れながら何とかやれないかというのは当然の流れだと思う。民間主導で住民に支持された公共性の高い事業として実施した例もあるので、そういう資金調達スキームを広島市も積極的に入れた文化施設の在り方というようなことをまず考えましょうとなると、選択肢が広がっていく。施設を減らそうという流れになると、話がどんどん小さくなるので、面白さ、楽しさが無い上、住民を巻き込めない。勝手に行政がやっているつまらない施設になる可能性が高いので、そこは民間主導も選択肢に入れてほしい。
- ・それと調査について、住民アンケート、大規模な無作為抽出のアンケートを私はどこかの時点で取られることをおすすめしたいと思う。例えば、最近様々な地方、小さなところでも、ホールはいらないけれど練習できるスタジオが欲しいという若者がたくさんいる。これらの声も拾ってあげないといけない。スタジオを作る方が安く、手軽にできる。将来音楽を支えたり、文化を支えたりする人たちの育成にものすごく効果があると思う。

(事務局)

- ・公共施設等総合管理計画のフォローをするわけではないが、少なくとも各施設はある程度各施策に基づき設置されており、集約、統合するに当たっては様々な考え方がある。
- ・この会議で議論してほしいこととして、文化施設というのは文化創造芸術を発信する場として我々もこれまで施策を行ってきてているが、表現する場としてどういう場が良いのか、どういう機能がいいのかということがまず議論してほしい。
- ・冒頭に局長が挨拶したとおり、今後人口減少が進み少子高齢化の中で、音楽を演奏する人もいれば、鑑賞する人もいる。本市は「花と緑と音楽のあふれるまちづくり」ということで進めている。
- ・加えて、広島交響楽団という楽団、県と市が支援している楽団もある。これは被爆後に市民楽団として生まれた。そういう環境、また、社会経済情勢の変化もある中で、文化芸術活動を含めた在り方としてどうか。その中で、今あるホール等を今後整理するに当たっては、例えば、三宅委員がおっしゃった複合多機能化もあり、民間資金投入ということもあると思う。
- ・アンケートは、我々も取っていきたいと思っている。例えば、我々の方で毎年市民意識調査をやっているが、その時期がなかなか検討会の日程と合わないので、受託業者の方で、例えば、ネットなどを使って、どういうアンケートできるかというのは検討したいと思う。

(中川委員)

- ・現在私は全国の自治体がどれだけ文化条例を制定しているか、計画を作っているか、審議会を作っているか、という調査をやっている。政令市の中で、条例もない計画もない審議会もないのは広島市。政令市も増えたのでそんなに目立ってはいないが、中国地方の要としては少し寂しい。
- ・なぜこのことが引っかかっているかというと、政治に左右されない基本条例・制度をつくらないと、市長が代わった、議会の会派構成が変わった途端にフラフラすることになる。
- ・例えば大阪市では、博物館、国際児童文学館やセンチュリーオーケストラなどは不要と知

事が判断をしたことに「ちょっと待った」となった根拠は、いわゆる法システムである大阪府の文化条例だった。知事は基本方針に定められている中で仕事をする必要があり、その基本方針は文化振興会議に諮って制定している。このように書いてあることを議員が気づいて、本会議でパシッと質問したことでピタッと止まった。それほど条例というのは大事なもの。自治事務は内部規範をきちんと作らないといけない。議会議員が従つたら市民も従う。それがないということが今回の議論のやりにくいところ。

- ・また、今日の資料を見て、一つ残念なのは受給者側のデータがなく、供給側のデータばかりというところ。
- ・例えば0歳から100歳までどういう人が機会に恵まれる状況にあるか、どういう人が阻害されているのか、学校との連携をどうするのかなど。
- ・私は滋賀県の文化審議会の会長をやっているときに、滋賀県は障害者問題の日本最先端県だった。障害福祉施設と連携してどのように技術供給をしたらいいでしょうかという話をした上で、アウトリーチ事業というものを作った。福祉施設や病院等にアンサンブルや混声合唱団の小型編成を派遣するというアウトリーチ事業だった。反対にインリーチ事業も行った。県内は交通の便も悪く、湖北の長浜あたりに住む人は南部にあるびわ湖ホールに行くことがない。議会もなぜ何億円もかけてホールを作るのか理解できず批判が集まる状況であった。
- ・改めてデータを見ていて気になるのは文化創造センター（アステールプラザ）等のホールの分担をどうするのかという議論はあるが、例えば区民文化センターについて、各区との連携はどうするのかということも議論しないといけないのではないかと思う。この2つのホールはそれの拠点施設として動くのではないか。
- ・県の施設のことは考える必要はない。県は県内の人口過疎であるとか、財政でも弱いところに動く。だから本来ならば県立ホールは、人口のまばらなところに置くべき。病院と一緒にである。県立病院や国立病院は中心部には専門病院も一般病院も置かない。それと同じようにこの市立のホールも人口のまばらであるとか、不便なところにどういうふうにハド面の供給を担保するのかという議論をしないと、ここで備えるべき機能の議論は深まらない。
- ・施設に集客をしないといけない場合、インリーチ事業を開発しないといけない。そのためにはソフトの議論も必要。肝心なのは行政の仕組み作りで、条例がないなら基本計画をつくる、基本計画もないのなら基本方針、その基本方針を作るに当たっては学校の代表、福祉施設の代表、病院の代表あるいは各世代の代表が入っている文化審議会を作るべきだと思う。
- ・また、機会の均等性という点で疎外されている人たちをもっとリサーチしないといけない。そういう意味で無差別抽出も大事だが、ピンポイントで福祉施設に聞きに行く、小学校の代表に聞く、中学校の代表に聞くことが大事。
- ・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」では、劇場、音楽堂が社会教育活動に供する施設であると再整理されている。その点にもう一度立ち返らないといけないと思う。
- ・大阪市に公共ホールが1個しかない、それ以外の民間ホールが11個あるがこれはいかがなものかと思う。民間ホールなら社会福祉的、社会教育的芸術事業をしなくても良いと思い込んでいる。私は条例や基本計画、文化審議会がないという広島市の弱点を、どうクリ

アしたらいいのかということですと悩んでいる。その上でこのホールの在り方を考えないといけないので、これからやり取りの中でどのような機能を備えるべきかという答えができる期待している。

(事務局)

- ・耳に痛い意見だと思う。
- ・御指摘のとおり、我々は条例を制定しておらず、計画も策定していない。ただ、その代わりとしては、本市は10年計画で広島市総合計画という計画を策定している。これはしっかりと議決を経て策定している計画である。その中の分野別計画として文化についての計画があり、その中で文化としての大まかな考え方として整理している。これは後ほど御提供したい。
- ・また、実施計画として、総合戦略を策定している。これは議決はいらないが、KPIを設定し、それについてP D C Aサイクルを回している状況である。
- ・大阪市のような状況は我々に生じていないが、少なくとも今回の議論の中で将来を見据えたときに「こういうものが必要ですよ」というような、位置づけも明確にしたい。
- ・その上で、様々な方の意見を踏まえながら、今後どういう規模の施設が必要で、その手法としてどういう方法があるか、表現する場としてどういうホールがいるのかという議論となると思う。
- ・そういった中で、財政状況というのは、我々の部署だけではなく財政当局も絡んでくる部分だが、その前に、まずは機能面について議論してもらうことが大事である。
- ・また、仮に整備するに当たって、座長から御発言のあった音楽専用ホールを作るとなった時に、今の施設の改修でいいのかは手法論になってくると思う。また、仮に設置する話になれば、例えば民設の動きがあれば、そういうところも合わせて検討していくことになると思われる。
- ・施設利用者について、例えば学校などへのアンケートはどういった形を取れるのか、また相談させてもらい、検討したいと考えている。

(中川委員)

- ・「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」の中に、教育機関との連携をうたわれている。
- ・それから大臣告示や基本方針の中には医療機関、あるいは福祉施設との連携というのが入っており、地域コミュニティの活性化のためにというのが入っている。そういうのも考慮したホールであるべき。
- ・それから新規の文化芸術基本法では、観光とかまちづくりに資するようなホールとするよう言われており、またこれで議論がお金儲けのほうに走らないか懸念している。あんまりそこに行くと、利用率とか稼働率ばかりが目的になってしまって、妙なKPIばかりになりかねないので、公益的目的をきちんと持った方法でやってほしいと思う。あんまり稼働率を稼ごうと焦らない方がいいと思う。

(三宅委員)

- ・これからどうやって議論を進めていくのかということを考えるときに、例えば倉敷市では、幼稚園で全員必ず1回は大原美術館ワークショップに行く。それも大原美術館の厚意で、倉敷のこどもたちは幼稚園、小学校、中学校、最低3回はワークショップを受ける。そういう実際に音楽に触れているこどもはどれぐらいいるのか、演劇を見た経験があるこども

がどれぐらいいるのか、そういったことの現状をまず調査をして、何が足りないのか、どうしたらいいのかということを考えた方が良いのではないかと思う。

- ・分野がいろいろあると思うが、K-POPであるとか若い子が好きな分野もあるし、それも大事な文化だと思う。そういったものも含めてニーズ調査をお願いしたい。

(勝又座長)

- ・鑑賞と発表、1,000席とか2,000席の大規模なものをやっているので今回の資料には出てこないが、広島市の中には各区にそんなに席数が多くないホール、市民の方に開かれたホールがある。その辺も次回の資料には載せてもらった方が良いと思う。

(栗原委員)

- ・劇場は作ってからが大切なわけで、施設を作ること自体に意味があるわけではなく、子どもが小学校に入るみたいなもので、劇場は作られてから長い期間を経て劇場としての役割を果たしていく。
- ・先ほど出た障害者や子どもたちの様々なことももちろん考えた上で、どういうソフトを入れていくのだろうかとか、広島市の人たちが誇りに思えるホールというものを作らなくては行けないと思う。
- ・昔は特に鑑賞型の施設というものが大変ありがたがられたわけだが、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」というものができて、参加型であるとか、地域との交流とか、様々なことをやらなければならないだろうという流れとなった。
- ・指定管理の問題もあり、そういうことがきちんとできていないと突然民間に顧客を取られてしまう。そこも正直あると思う。
- ・それからホールを建てるということだけを議論するのではなく、例えば職員の問題としていったいどれだけの人員費がかかるのかなどもある。専門職がいなくて嘱託がほとんどで困っているような施設が全国ほとんどなわけだから、そういう財政的なところも含めて、スタッフをきちんと確保できるのかとか。
- ・先ほど言つたいろいろな子どもの居場所作りみたいな、例えば、そういったスタジオを併設することは、もちろんそういう目的を持った施設を作るということになる。
- ・しかし、一方で予算というものとのせめぎ合いがあると思う。今後、色んな人の意見を聞いたらいしいと思うが、やはり広島市民がどうしたら誇りに思ってくれるのかというときに、私は多目的ホールはあまり賛成ではない。一つぐらいはあっていいと思うけども、たくさんある必要はないと思っていて、広島交響楽団があるのでシンフォニーホールを作るということも一つの考え方だと思う。ただ、もちろん広島交響楽団の演奏会だけをたくさんできるわけでもないだろうし、市としてもそこまでお金を出すことができないという話になると、それではどうしたらホールを将来的に維持することができるのだろうか。
- ・例えば、広島市が大阪のシンフォニーホールよりももっと良い音のするホールを作るということは全く問題ないものの、広島市は財政的なものとプログラムをきちんと作った上で、人員をきちんと確保してからそういうホールを誕生させるのがいいと思っている。
- ・ここは非常に難しい議論だが、ホールを改修するのが良いのか、スクラップ&ビルトで建て直してしまうのがいいのかというのは、多分この会議の中で「こうしたらどうですか」という提言ぐらいはできるかもしれない、どういう方向に行けばいいのか、全体的な像の中から浮かび上がってくるというふうに考えている。

(勝又座長)

- ・栗原委員がいらっしゃる吉祥寺シアターはどのぐらいの規模か。

(栗原委員)

- ・劇場は小劇場で180席ぐらいの小さな小屋であるが、私自身はシアターとか他の文化会館とかコンサートホールの施策とかをいろいろやっている。
- ・演劇の場合は1,000人から1,500人でできる劇団というのがどれだけあるのかとすると、東京でも1,000席でできる劇団はいくつもない。
- ・音楽、クラシック音楽でも発表会のようなものから非常にプロフェッショナルなものまで様々なものがある。
- ・プロが使うホールが必要なのか、市民が発表の場として使うホールが必要なのか、あるいは、鑑賞型でありながら何かできるホールが必要なのか。多目的ホールもあるし、何かもう少し違うタイプのホールを持って、それをみんな企画と運営はしているが、これまでの貸しホールと同じような企画と運営では、プロだけが使うホールというわけにはなかなかいかない。

(勝又座長)

- ・お芝居、演劇って生まれて初めてつまらない劇を見ると、もう二度と演劇嫌になってしまう。そこをやっぱりうまく仕掛けていかないと、大変なことになる、というかもう一生文化芸術と出会えなくなってしまう。

(栗原委員)

- ・先ほどの美術館の件と同じことだが、小学校でまず来てもらうとか、小さな頃に1回は行ったことがあるということが大事。そうでないと普通のコンサートホールとか市民会館とか行くと、大体の人が成人式に行く場所か選挙に行く場所か、全然違う目的でしか認識されていないので先ほど言ったように小学校から体験できるというのは素晴らしいと思う。
- ・けれども先ほど申し上げたように、小学生も見ている者たちというものに対する教育委員会としてとかそういうところにお金がつけられるのかどうかということもなかなか難しいのかもしれないで、ホールの設計とこどもたちを育成していくプログラムというのを合わせて作れるのがいいかなと思う。

(勝又座長)

- ・広島市文化交流会館とそれから文化創造センター（アステールプラザ）、今日実は午前中私見てきたのですが、ひと時代前のホールという印象で賑いがほとんどない。
- ・最近のホールはロビーやホワイエとか、図書館が併設されていたりして賑いがある。
- ・自由に使える情報交流ラウンジに自習禁止と書いてあった。自習で、受験生に占拠されてしまうと一般市民の方々がゆっくりできないからかなとは思うが、最近の公共ホールでは、図書館にもちゃんと自習スペースがある。
- ・閑散としたロビーに椅子を置くとか、普段ホールに来ないような高校生とか中学生も寄つてざわざわしていて、それで何か公演のパンフレットを見て行こうかなと思わせる、そういう仕掛けも必要なのではないかと思っている。そういうのがあまりないので、少し残念だなと思う。

(田中委員)

- ・私は専門がまちづくりなので、まちづくりという立場から少し話をさせてもらえたならと

思う。

- ・まちづくりとしては、やはり文化的に、全ての方に文化を届けるというところは大事と思っている。
- ・先ほど少し座長が言われた区民文化センターについて、私の大学ゼミの学生がミュージカルをやっているので、区民文化センターに見に行ったりするが、老朽化しているが非常に立派だなという印象を持っている。ああいうものがやはり実際自分たちでやるっていう意味で言うと一定の役割を果たしているのかなと思っている。
- ・文化ということを全体で見たときに、広島市でそれぞれのホールや区民文化センターがどういう役割を果たしているのか、みたいな部分について一旦整理ができると良いのかなと。全体像が整理できると文化創造センター（アステールプラザ）や文化交流会館の役割も整理ができるのではというのが1点。
- ・まちづくりの観点から申し上げると、私が住んでいる東広島では少し前にくらら（東広島芸術文化ホール）というホールが町の中にできたことによって明らかに街の雰囲気が変わった。
- ・先ほど座長のお話もあったが、やはり高校生の居場所というのはかなり大事で、高校生が勉強している。そうすると高校生たちが、こんな公演をやっているのか、ということを知ったり、そこに来る人たちと触れ合ったりして、様々な情報交換も行われる。そういう意味でいうと彼らや市の皆さんのがいろいろな文化に触れるという機会を作っているということに繋がっていると思う。
- ・まちづくりの観点から少し広島都心部全体のまちづくりを考えると、街というのはそれぞれのエリアに特徴のあるところがざっくり言って10個ぐらいあると魅力的ですよ、というふうに言われている。
- ・そう考えると文化的な施設というのはそのひとつの核になり得る場所で、そういうところをまちづくりの観点から少し戦略的に立地も含めて考えられるといいのかなというのが2点目。
- ・3点目は、もうひとつ、まちづくりの観点から言うと、様々なコンサート興行が広島を飛ばしてしまうというところがひとつ。まちづくり・まちの活性化という観点から言うと、問題だなということは我々の限界では言われている。そう考えると興行する側から見たときに何が必要なのかという視点も調査の視点としてあると良いと思った。

(勝又座長)

- ・「〇〇飛ばし」という言葉は結構あちこちであり、私は名古屋にも少し関係しているが、名古屋も名古屋飛ばしになっている。
- ・興行主の方々へなぜ名古屋飛ばしになるのか聞くと、ちょうど良い規模のホールや発表の場、借りる場がない。それから数が少ないので取り合いになってしまふ。それから予約が2年とか2年半前になると、もう重要な有名なアーティストを連れて来ようと思った時に、場所が取れないから駄目だということを言っていた。
- ・別の人にはやっぱり都市に魅力がないと。名古屋市は少しお客さんの質が違い、悪い意味ではないが、何か文化芸術に指向としてあまり向いていない部分があるから実は飛ばしていると言っていた。
- ・スペースの問題、文化振興上の問題、どうやって文化芸術について教育するかとか、興味

を持ってもらうかという両方があると思うが、どちらが真相かちょっとよく分からぬが、広島飛ばしは何が真相かといえば両方あるかなと思う。

(事務局)

- ・田中委員のお話、非常に示唆に富んだ意見だと思っている。これまで少し議論があつた区民文化センターとの役割については、我々が今回対象から外したのがあくまでも区民文化センターは区民のためのということで、ホールの規模も、今のお示ししている規模ほど大きくなないが、栗原先生がおっしゃったような劇団とかがやるというような形とか、中川先生からお話をあった地域との関わりというところで機能している。
- ・これを議論の俎上に乗せると、他の例えば公民館や集会所、福祉センターなどの施設をどのようにしていくかというところの議論になるので、まずは大規模なホールというところ。
- ・大規模ホールはある程度興行的なものを入れている反面、ある種文化的な発信が足りないという田中先生から御指摘があった。そういうところや広島飛ばしも含めて街の魅力として、最大限発揮させるためにはどうあるべきか、というところを視点に入れた切り口で議論してもらえばというふうに考えている。
- ・文化センターも含めて、どのように使われているかというイメージが湧かないというところはあるので、こういう施設で実際こういう利用がされているとかというのは次の会議のときに用意し、説明させていただきたい。

(勝又座長)

- ・それからもう一つ、次回検討会の資料に向けて、先ほどの栗原委員から話のあった「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」についても触れてもらった方が良いかなと思う。

(栗原委員)

- ・広島飛ばしの要因はよくわからないが、名古屋については、興行的なことから言ってしまうと、売れないからやらないというのが実際だと思う。
- ・例えばクラシック業界だと、京都は売れないからできれば飛ばそうとか。そういう話になってしまい、名古屋の人が別に貧乏なわけではないのに、お金の使い方として、そういうものにお金を使わないから難しい。
- ・それから放送局がきちんとしているので、その放送局がやってくれるから良いとか、何か理由がある。基本的にポップスは売れるか売れないかということで決まる。
- ・この話を聞いたときにやはりシティシンフォニーホールと、ポップスのトップアーティストみたいなものが来るような割と大きなホールを作らないと、大は小を兼ねるではないが、やはりそういう最高のものを作ってしまったほうが良いのではないか。
- ・規模の大きくなないホールではポップスのアーティストがそこで自分の格が落ちるみたいなので、それで飛ばしてしまうこともある。
- ・素晴らしいホールというものもあるので、売れるかどうかということと、クラシックはあまりそういうことは言わぬが、ポップスの場合は特に自分の格を落としてまでそこでやりたくないということがある。東京だったらここでやるというようにほとんど決まってしまっていて、他の市のレベル・区のレベルの会館が「ツアードラムですか」と言っても、それは受けてくれないということが現実としてある。そういう人たちが受けたくなるようなホールであることが重要だろうと。そういうのができれば必然的に飛ばされないと思う。

(勝又座長)

- ・先ほど名古市の話をしたが、名古屋に2,000席のホールがあるが、そこがやはり規模が小さすぎるのでやっぱりなかなか使いにくいという。あまり2,000席ぐらいのホールはトップアーティストの人たちにとってなかなか難しいかなと思っている。

(三宅委員)

- ・第5回検討会の最終で、文化ホールの在り方を策定するということだが、これはこの検討会が策定するというものなのか、そうではなく、意見を踏まえて、広島市が策定するというものなのか確認したい。
- ・先ほど説明があったこの検討会は、「大きいホールを中心に考えてもらいたいのだ」というふうに事務局が整理をされたという説明だったが、先ほどから皆さんが言われていたのは、「それだけじゃ判断できんよ」っていう話。
- ・そもそも文化とは、広島の文化性を高めるための施策の一つとして、ハードだけじゃないという話があった。その辺をきちんと整理をして欲しいのと、そうであれば、ホールだけではなく、もう少し本当にソフト的なものを子どもたちに今どういうものを提供していく、これからどうしたいのかっていうのを盛り込むべきなのかなと思った。

(事務局)

- ・御指摘のあった、それぞれ本市が現状どういった政策を展開しているかということと、どういった点で政策を展開しようとしているかという点は改めて説明する。
- ・それを踏まえた上で、「広島市は今こういうふうな政策を展開しようとしているけれどこういうところ足りないよね」というところは多分議論として出てくると思うので、それが課題になると思っている。
- ・そういう中で今、田中委員からもいろいろお話があったが、区民文化センターというところが政策を推進する中でどういう役割を果たしているかと。それと併せて今の文化創造センター（アステールプラザ）であるとか、HBGホールっていうのがどういう役割かというのが見えてこないというところの御指摘があったので次の会議で整理して示そうと思う。
- ・例えばまちを盛り上げていくといった時に、これについても次回の会議でお示ししようと思うが、我々広島市が連携中枢都市としていろいろと展開しており、近隣の市町を含めた連携施策推進のトップリーダーということで市長の発意のもとでやっている。その圏域として盛り上げていこうというような動きもしている。
- ・そういったところも話しながら、先ほど御指摘のあったアンケート等々も踏まえ、広島市の文化としての方向性、カチッとしたものではなかなか難しいとは思うが示していきたい。
- ・スケジュール上、いろいろ難しいが、説明して何か意見をもらった上で、今の文化創造センター（アステールプラザ）であるとかHBGホールといったところの今後、将来を見たときの役割として、1,000席以上の結構比較的大きなホールについてどういうふうにしていくか。
- ・例えば専用ホール、はたまた多機能ホールでやっていくのか、それはいる、いらないとかというのをフラットにご検討してもらい、それは個々の検討会で一定の指向性を出していただければというふうに考えているので、そのような進め方をさせてもらえばと思う。
- ・前提として、どういった展開をするのかは、あくまで政策があり、その中に必要な機能を議論してもらう。

- ・将来的にこれだけのコストがかかりますとか、運営等を踏まえた時に、それはこういうものを作ったらこういう課題があるとかというところよりは、今回の検討会は「在り方」なので、こういうふうにあるべき姿だというところを検討会で議論してもらう。
- ・市の方でそれを受けて本市としてどのように進めていくかっていうのはまた改めて市民の方や、議会の方で意見をもらってまとめていきたいと考えている。

(中川委員)

- ・今の答弁も含めて文化ホールのことを議論するだけでは済まなくなっている。
- ・他のホールを拠点とする芸術文化政策は、どんなものを考えているのかということを明確にしないといけない。
- ・二つ分けて、いわゆる市場補完型のマーケット補完型の利益を勝ち取ってもいいよみたいな、貸しホール事業及び自主事業というグループの利益追求型の事業と分けて、市民に対する公益を施す、いわゆる教育型福祉型の事業は何を考えられるのか。それによって劇場が備えるべき対応機能もまた変わってくる。
- ・例えば、聴力障害者のための演劇祭などをやる場合、当然字幕機能が必要。身体障害者をお招きする音楽祭であるならば、スロープが必要。そういう、機能についても議論しなくてはいけない。
- ・それから女性にどんどん来てもらいたいのであれば、保育室とか授乳室が必要になってくるだろう。そういう議論もしないといけないと思うが、そのためには公益事業としてこんなことを考えますということを出してもらわないと、マーケット補完だけ取ったみたいな文化政策の発想では困る。
- ・先ほど、賑わいとか溜まり場、まちづくりの戦略拠点という話が出たが、これらは大賛成。
- ・それはあらゆる人が気楽に来られる場所という言い方をするが、高校生が自習するのを断るような場所では駄目。もう高校生だろうが何だろうが溜まってくれたらいい。ただ、事業をやるときには邪魔しないでと、それだけマナーを教えたら良い。だからそこに何となく人が集まってくる。私はそれが戦略拠点だと思う。
- ・つまり溜まり場を作ること。ただ、そこに強い者勝ちの溜まり場を作ったらいけない。そういう意味でさっき言ったあとあらゆる人の中に障害者も忘れたらいい。
- ・分布を見せてもらわないとどれだけの機能が必要なのかという話をしにくいと思う。
2,000席がどうかとか、1,500席はどうなっているのとか、人口の動向を考えれば相対的に出てくる話だと思う。

(渡邊委員)

- ・今回はこのタイトルにある文化ホールの在り方を検討しなさいということで、今回広島市の文化交流会館にしても文化創造センター（アステールプラザ）にしても、ホールの他に複数色んな機能を持っている中で、それ全体を含めて文化ホールと言っているのか、そうでなく本当にコンサートをやるその空間それが文化ホールなのか、文化ホールはどこまでを指して議論をすれば良いのかというところが分からなくなっているのだが、その辺りの事務局の見解はどうか。

(事務局)

- ・今回の調査の中で、我々がまず検討してもらいたいと思っているのはホールそのものということ。ただその中に、本日少し紹介したように各ホールに様々な機能というものが付属

されているので、議論の中心はホールだが、それに付帯するものとしてそういったものが側面的に必要かどうかも当然視野には入ってくるものと考えている。

(勝又座長)

- ・現状の文化交流会館と文化創造センター（アステールプラザ）の使われ方、ホールだけではなく、練習場とかもたくさんあるが、特に文化創造センター（アステールプラザ）については、何かその辺の使われ方も報告してもらった方が良いと思う。
- ・それから、どういう自主事業をされているのかも整理してもらった方が良いと思う。
- ・先ほど中川委員は県の施設はいいよという話もあったが、規模的に似ているので、やはり県の施設についても検討した方がいいのではないかと思う。

(勝又座長)

- ・まだ少し時間があるが、事務局の方はどうか。

(事務局)

- ・今回、文化創造センター（アステールプラザ）が非常に寂しいというような御指摘をもらったので、それは早急に対応したいと思う。

(勝又座長)

- ・文化創造センター（アステールプラザ）は時代が古い。東広島のくららなどはもっと温かい。石で固めているとか、その造り方から、施設もちょっと違う。例えばこの文化交流会館と文化創造センター（アステールプラザ）を今の時代に合わせて改修しようというのは、それは多分できる。今後の方向性としてそういったものもあるかなとは思う。
- ・特に文化交流会館の方は骨格が非常にしっかりしている。改裝・改修については、丹下先生の意見を聞かずに改修すると多分怒られる可能性はあるが、改修しがいがあるというふうに思う。
- ・文化創造センター（アステールプラザ）の方は結構細分化されており、特に上の方の会議室はオフィスビルのようで、あまり温かさはないし、あんまり人が行きそうもないし、残念なところがある。
- ・そういう意味では委員の皆さんでこの両方のホールについて、共通の認識を持ちたいと思うので、何らかの形で見る機会とかそういうのがあると良いと思う。そこら辺は検討してもらえればと思う。

(事務局)

- ・我々としても議論してもらう中で、やはりその両施設をよく知ってもらうことはとても大切なことだと思っており、次回検討会の前後のところで、参加してもらえる方には、そういった機会を設けたいので、また調整させてもらえばと思う。

(渡邊委員)

- ・そういう意味では次回の検討会は文化ホールでやれば良いのではないか。会議は別に市役所でやる必要ないと思う。そういう方向で調整してもらえばすぐに見られると思う。

(事務局)

- ・第2回検討会の日程調整を既にさせてもらっているので、その辺り空きがあるかどうか確認する。

(勝又座長)

- ・他に意見が無ければ、これをもって第1回文化ホールの在り方検討会を終了する。

- ・事務局から連絡事項があれば、よろしくお願ひする。

(事務局)

- ・次の検討会は来年の2月頃の開催で、本日もらった意見を踏まえて、今から追加調査等を行って資料等準備していく。
- ・今回もらった課題の整理、我々が追加調査したものも示しながら、課題の整理や本市に必要な文化ホールの機能といったところについて、また意見をもらいたいと思っている。
- ・また、必要に応じて相談させてもらおうと思うが、ご指導ご協力の程、引き続きよろしくお願ひしたい。